

第22回文化講座

「発掘調査速報2006」

日時：2006年7月29日（土） 午後2時～4時

場所：沖縄県立埋蔵文化財センター 研修室

基地内埋蔵文化財分布調査

沖縄県教育庁文化課 濑戸哲也

○基地内埋蔵文化財分布調査

沖縄県教育委員会及び沖縄県立埋蔵文化財センターは、平成9年度から県内の米軍基地及び自衛隊基地の埋蔵文化財の分布状況を調べています。これまで、宜野湾市に所在するキャンプ瑞慶覧、普天間飛行場を中心に、宜野湾市教育委員会と共に調査を進めています。

○調査の方法

試掘調査…1ヶ所4×4m程度の調査区をまず試しに掘ることで、遺物の有無・堆積状況を確認することで、遺跡の可能性があるかどうかを判断します。

範囲確認調査…試掘調査で遺跡の可能性がある範囲において、その範囲の1割を目処により大規模な調査区を掘り、さらに詳細な範囲・性格・時代を調べます。

○平成15~17年度の調査状況

普天間飛行場では、14年度までは試掘調査をメインに行っており、調査可能範囲のほぼ9割は終了しました。15年度から、遺跡と想定された範囲において、範囲確認調査を実施しています。様々な遺跡が見つかっていますが、今回はグスク時代（今から約500~800年前）の遺跡を紹介します。

○普天間飛行場内のグスク時代の遺跡

喜友名前原第二遺跡…14年度の試掘調査で柱穴を確認し、15年度の範囲確認調査でグスク時代の集落であることが判りました。その結果、17基の掘立柱建物を確認して、その大きさには8×4mの大サイズと3×2mの小サイズの概ね2種類があります。出土遺物には少量ですが、12~13世紀の土器・白磁・カムィヤキ・陶器があります。また、より古い貝塚時代中期（約2,500~3,000年前）の堅穴住居跡も見つかっています。

大謝名軍花原第二遺跡…16年度の試掘調査・範囲確認調査でその実態が判明したグスク時代～戦前の耕作地跡です。周辺の地形は浅い谷状になっています。戦前の地割方向と18世紀の区画がほぼ同一であることが判りました。グスク時代には、非常に黒く炭や焼土が混じる土が厚く堆積しており、耕作土と考えています。その上層にはいわゆる「植栽痕」と呼ばれる列状に並ぶピット群が見つかりました。このピット群は県内のグスク時代の遺跡で見つかっており、何らかの苗や木を植えた痕と考えられています。その下層には、柱穴とは考えにくい底が尖った形のピットが多数見つかりました。今回の調査では、具体的な栽培法までは判りませんが、雨が降ると水が長期間溜まることなどから、グスク時代もやはり耕作地であったと考えられます。

喜友名前原第三遺跡・喜友名東原第三遺跡…平成11・12年度の試掘調査により想定された遺跡で、17年度に範囲確認調査を行いました。その結果、この2遺跡の範囲には、先の大謝名軍花原第二遺跡のように、黒い土が厚く堆積しており、耕作地の可能性が考えられます。特に喜友名前原第三遺跡は、先述の集落跡であった第二遺跡のすぐ東方に広がり、関係する耕作地であった可能性があります。

○まとめ

普天間飛行場においては、平成10年度からこのような調査を行っており、遺跡の範囲・性格が分かれています。特に、グスク時代の集落跡と耕作地が明らかになり始め、今後調査がさらに進めばその関係が分かるかもしれません。今年度も同飛行場内で調査を進めていく予定です。

沖縄科学技術大学院大学（仮称）建設予定地内の遺跡

専門員 片桐 千亜起

1. 調査目的

沖縄県恩名村において計画されている沖縄科学技術大学院大学（仮称）の建設に先立って、予定地内における埋蔵文化財の分布状況を確認する。

2. 調査対象地

沖縄県恩名村谷茶・南恩名（約 124ha）

3. 調査期間

平成 16 年度～平成 17 年度（2 ヶ年間）

（1）第 1 次調査 平成 17 年 2 月 1 日～4 月 30 日（表面踏査）

（2）第 2 次調査 平成 17 年 11 月 29 日～平成 18 年 2 月 27 日（試掘調査）

4. 調査方法

（1）調査地域を 3 つに分割

A 地区（海側開発検討ゾーン周辺、約 4.2ha）→ 海岸部

B 地区（北尾根開発検討ゾーン周辺、約 65.7ha）→ 山間部

C 地区（南尾根開発検討ゾーン周辺、約 54.5ha）→ 山間部

（2）表面踏査

A 地区～C 地区の 124.4ha 実施。表面踏査地域の大半が険しい山間部のため、①沢沿い→②尾根沿い→③平坦部→④尾根斜面の順番で表面踏査を実施。遺構や遺物散布地等が確認された場合はロープでマーキングを行い、おおよその位置を地図上に明記した。その後、G P S を利用して正確な位置座標を取得した。

（3）試掘調査

表面踏査の成果を考慮して A 地区・C 地区で 73 箇所実施。基本的に 2 m × 2 m の試掘坑を設定し、必要に応じて拡張する。C 地区はバックホウが進入できる場所ではないため、作業員を動員して手堀りにより実施。A 地区はバックホウが進入できる場所についてバックホウを利用して実施。

5. 主な調査成果

2 カ年間の予備調査により 74 地点において遺構や遺物散布地が確認された。

（1）炭焼き窯 34 基（B 地区）

（2）猪垣 2 本（A 地区、B 地区）

（3）落とし穴 8 基（B 地区、A 地区）

（4）烟跡 5 箇所（B 地区、C 地区）

（5）古墓 3 基（A 地区、C 地区）

（6）遺物散布地 1 箇所（A 地区）

（7）歴史の道 1 箇所（A 地区）

（8）その他（石積、石列、テーブル珊瑚集積、階段状平坦面等）



沖縄科学技術大学院大学（仮称）建設予定地と調査範囲

すうばる 潮原古墓群の発掘調査

沖縄県立博物館 専門員 羽方 誠

1 発掘調査の原因・目的

与那国空港の拡張工事によって、潮原古墓群が破壊されることがわかった。そこで工事の前に発掘調査を行い、図面や写真で記録し、出土品を保存することになった。

2 発掘調査の成果

1 墓の概要

- 1 立地：石灰岩の岩盤が露出している所に造られている。
- 2 形態：○岩陰を利用する岩陰墓と、周りに石を積む石積み墓がある。
○墓室内～墓口外側に砂を敷く場合が多い。
- 3 埋葬方法：○遺体をそのまま埋葬する一次葬と、洗骨したあとに埋葬する二次葬がある。
○一基の墓に一人だけ埋葬する場合と、数人を埋葬する場合がある。

2 出土品

- 1 納骨器：納骨専用のものと、沖縄産陶器を転用したものとがあり、後者が多い。
- 2 副葬品：○陶磁器…中国産・沖縄産の碗、皿、瓶など
○ガラス瓶…酒瓶など
○身の回り品…簪（かんざし）、櫛（くし）、煙管（きせる）、ボタン
○その他…鉄くぎ
- 3 人骨：発掘調査の前に、墓の持ち主によって持ち帰られていた場合が多い。

3 特殊な例

- 1 頭骨だけが少し離れて出土した墓。（1号、31号、33号、49号）
- 2 骨が出土しなかった墓。（12号）
- 3 元々は一つの墓を2つに区切った墓。（14号、38号）

4 潮原古墓群が営まれた年代

近世～現代



与那国島の航空写真

<潮原古墓群における墓の形態分類図>

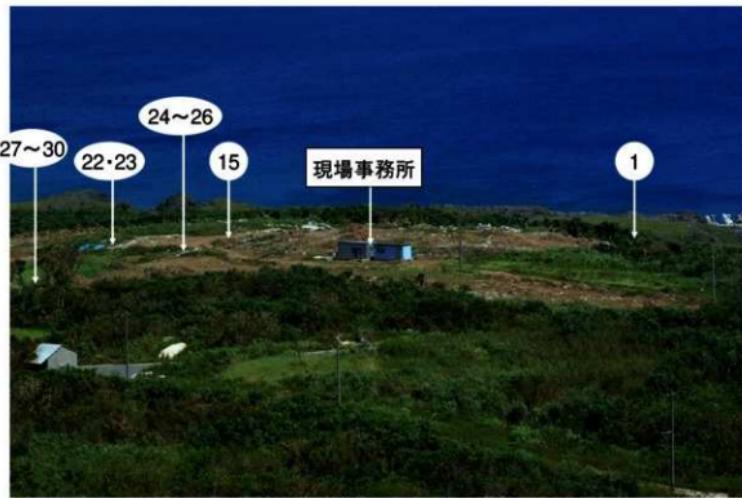


※()内は不明確なもの、推定を含むもの。

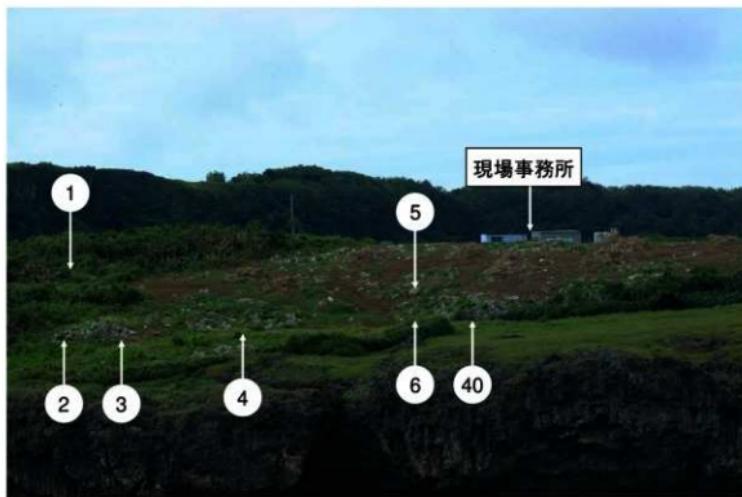
潮原古墓群 遺構リスト

	遺構名	遺構の種類	埋葬形態		床石	モルタル	砂敷き	出土 遺 物							特徴など	
			一次葬	二次葬	砂岩			納骨器	人骨	陶磁器	ガラス瓶	簪	キセル	釘	その他の	
1	1号墓	岩陰墓	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	最低6体分の 人の骨。
2	2号墓	石積み墓		?		●	●		●	●		●	●	●	●	近現代コイン、ボタン。
3	3号墓	石積み墓		?		●										小型の墓
4	4号墓	石積み墓		?	●	●			●			●	●	●	●	錢貨
5	5号墓	石積み墓	●					●		●	●	●		●		半地下式。釘多 い。
6	6号墓	石積み墓 か		?					●	●	●					小型の墓。岩盤を 削っている。
7	7号墓	石積み墓		?		●	●		●	●	●			●		現代の10 円、プラス チック製 品。
8	8号墓	石積み墓		?		●			●	●	●			●		
9	9号墓	石積み墓		?	●	●			●	●			●	●		鉄塊・炭・焼 土? から炭。
10	10号墓	石積み墓		?	●	●			●				●			
11	11号遺構	集石							●	●						岩盤の凹凸を埋め るための集石か。
12	12号墓	岩陰墓か		?		●			●	●	●					墓庭から人 骨1点のみ 出土。
13	13号墓	石積み墓		?						●						缶詰?
14	14号墓	石積み墓		?						●	●			●		ボタン、鈴。 近現代のコイン
15	15号墓	石積み墓		?		●			●				●			
16	16号墓	不明	●													調査対象外
17	17号遺構	石積み							?							
18	20号遺構	集石							?	●						屋根瓦
19	21号遺構	集石								?						
20	22号墓	石積み墓		●				●	●	●	●	●	●	●		墓庭を囲う石積み あり。
21	23号墓	石積み墓		●	●				●	●			●			
22	24号墓	石積み墓		●	●			●	●	●	●	●	●	●		
23	25号墓	石積み墓		●	●			●	●	●	●	●	●	●		木片が出土。
24	26号墓	石積み墓		●		●		●	●	●	●	●	●	●		床石下から少量 の人骨等が出土。
25	27号墓	石積み墓		●	●				●	●	●	●		●		
26	28号墓	石積み墓 か		?				●		●						

遺構名	遺構の種類	埋葬形態		モルタル	砂敷き	出土遺物						特徴など			
		一次葬	二次葬			床石	砂岩	石灰岩	納骨器	人骨	陶磁器	ガラス瓶	簪	キセル	釘
27 29号墓	石積み墓	●	●						●	●	●	●	●		
28 30号墓	石積み墓	●	●			●			●	●	●	●	●		
29 31号墓	石積み墓	●	●			●			●	●	●	●			土留め?の石積みあり。
30 32号墓	石積み墓		?												調査対象外
31 33号墓	岩陰墓	●							●	●	●	●	●		集石で墓口をふさぐ。
32 34号墓	集石								●	●					自然堆積か。
33 35号墓	集石														自然堆積か。
34 36号墓	岩陰墓か	?							●	●	●	●	●	●	
35 37号遺構	集石														
36 38号墓	石積み墓		?						●			●			
37 39号墓	遺物散布地								●	●			●		
38 40号墓	石積み墓		?			●	●			●					小型の墓。
39 41号墓	岩陰墓か	?							●	●	●			● ボタン	
40 42号墓	石積み墓		?			●									小型の墓。9号墓と関連か。
41 43号墓	石積み墓		?												調査対象外
42 44号遺構	不明														調査対象外
43 45号遺構	不明														調査対象外
44 46号墓	石積み墓		?												調査対象外
45 47号墓	遺物散布地								●						
46 48号墓	岩陰墓か								●	●					遺物は流れ込みの可能性あり。
47 49号墓	岩陰墓	●							●	●		●	●		成人男性が1体。岩盤を削ってい。小豆豆玉。石盤を削ってい。
48 50号墓	石積み墓か		?			●			●	●	●	●			
49 51号遺構	集石													石製杯	
50 14・38号墓下層	石積み墓か		?						●	●	●	●	●		
51 52号遺構	遺物散布地								?						
52 53号遺構	石積み墓	●	●			●			●	●	●	●	●	ガラス製玉	



潮原古墓群の遠景写真(南から撮影。数字は墓の号数。)



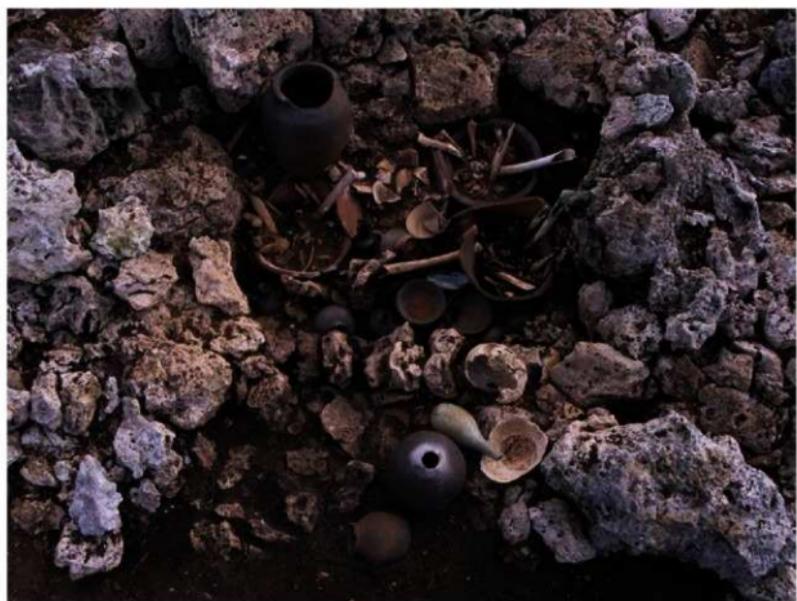
潮原古墓群の遠景写真(北から撮影。数字は墓の号数。)



1号墓



5号墓



24号墓の墓室内



30号墓



33号墓



49号墓



副葬品（沖縄産の陶器）

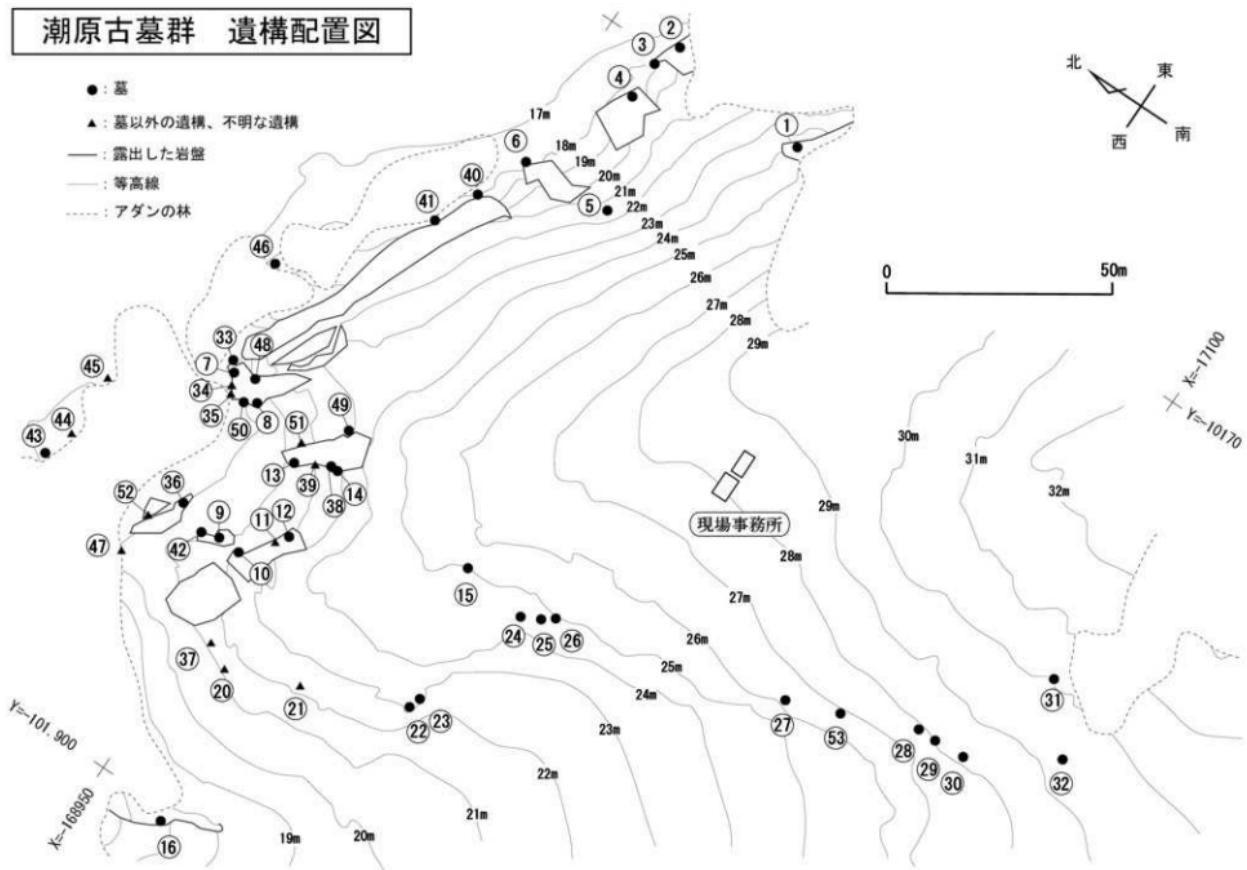


副葬品（中国産・日本産の磁器、ガラス瓶）

潮原古墓群 遺構配置図

- : 墓
- ▲: 墓以外の遺構、不明な遺構
- : 露出した岩盤
- : 等高線
- : アダンの林

北
東
西
南



これからのお 沖縄県立埋蔵文化財センター行事案内

- ◎ 体験学習「原始人の技（わざ）-石器作り、使ってみよう-」
8月13日（日）
- ◎ 企画展「発掘調査速報移動展2006」
場所：恩納村博物館
9月9日（土）～9月23日（土）
- ◎ 企画展「土の中からあらわれた金属製品」
10月24日（火）～11月26日（日）
- ◎ 第23回文化講座「琉球の出土金属工芸品について」
10月28日（土）
講師：久保智康（京都国立博物館 工芸室長）
- ◎ 企画展 重要文化財公開「首里城京の内跡出土品展」
2007年1月16日（火）～1月21日（日）
- ◎ 第24回文化講座「首里城出土陶磁器の近年の成果」
1月20日（土）
講師：瀬戸哲也（沖縄県教育庁文化課専門員）

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原193-7

TEL:098-835-8752 FAX:098-835-8754

<http://www.maizou-okinawa.gr.jp/>